

平成28年度(2016年度)

事業報告書

社会福祉法人 大川市福社会

I 基本理念・運営方針

1. 基本理念

人としての誇りを大切にし、地域社会で共に暮らせるよう支援します。

～「人権」「自立」「社会参加」～

2. 運営方針

- (1) 障害のある方の人権を守ります。
- (2) 利用者の障害の状態に配慮して、安心・安楽に過ごせるよう、自立に向けた支援を行います。
- (3) 障害のある方の地域生活を支えるための基盤整備を行います。
- (4) 地域社会との関わりや保護者及び関係機関・団体との連携を図りながら、利用者の社会的経済的な自立促進を目指します。
- (5) 経営基盤を安定させ、地域に貢献できる組織作りを行います。

II 事業運営

- (1) 第二種社会福祉事業 多機能型事業（木の香園生活支援センター）の運営
「生活介護」「就労移行支援」「自立訓練」及び「日中一時支援事業」併設
- (2) 第二種社会福祉事業 就労継続支援B型事業（木の香園就労支援センター）の運営
- (3) 第二種社会福祉事業 多機能型事業（木の香らんど）の運営
「就労継続支援B型」（木の香らんど）
- (4) 第二種社会福祉事業 障害児通所支援事業（木の香園児童支援センター）
- (5) 第二種社会福祉事業 地域活動支援センターⅢ型（木の香らんど）の運営
- (6) 第二種社会福祉事業 相談支援事業（木の香園相談支援センター）の運営
- (7) 第二種社会福祉事業 特定相談支援事業（木の香園相談支援センター）の運営
- (8) 第二種社会福祉事業 障害児相談支援事業（木の香園相談支援センター）の運営
- (9) 第二種社会福祉事業 共同生活援助事業、共同生活介護事業（木の香ほ一む）の運営

法人本部

(1) 実施状況

①理事会

年間7回、
理事会を開催し議案の審議、協議等を行った。

(理事会での審議事項等 参照)

- 第1回 平成28年5月26日(木)
- 第2回 平成28年7月27日(水)
- 第3回 平成28年11月4日(金)
- 第4回 平成28年11月24日(木)
- 第5回 平成28年12月13日(火)
- 第6回 平成29年1月25日(水)
- 第7回 平成29年3月28日(火)

(2) 評議員会実施状況

年間4回、評議員会を開催し審議等を行った。

(評議員会での審議事項等 参照)

- 第1回 平成28年5月26日(木)
- 第2回 平成27年7月27日(水)
- 第3回 平成28年12月13日(火)
- 第4回 平成29年3月28日(火)

(3) 経営基盤及び経営組織の強化

- ① 第2期5か年計画の実施に基づき事業の促進を図った
- ② 各事業所の運営状況を把握するため、理事、監事による事業所視察を5回行った。
- ③ 法人運営、児童発達支援・放課後等デイサービス、グループホーム事業運営を学ぶために次の法人を視察し研修(9月6日～7日)を行った。
視察先
 - ・社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会(鞍手郡鞍手町)
 - ・社会福祉法人しいのみ学園(福岡市)
- ④ グループホーム利用希望者の増加に伴いサンヴェルディ木室に新たに2室確保した。
- ⑤ 障害者支援システムのリース期間終了に伴いシステムの更新を行った。
- ⑥ 社会福祉法改正に伴う諸規程の整備を図った。
- ⑦ 育児休業法の改正に伴う育児・介護休業等に関する規程の整備を行った。

(4) 施設・設備の維持改善

- ① 施設の老朽化に伴い利用者が不便さを感じないよう適切な施設の維持管理に努めた。

(5) 財務管理

- ① 利用料の口座引き落としの推進を行い収納事務の効率化を行った。
- ② 木の香園就労支援センター、木の香らんどにおいて人件費積立金、修繕費積立金、備品等購入積立金、施設整備費等積立金及び木の香らんどにおいて設備等整備費積立金、工賃変動積立金の積立を行った。(積立の内訳 参照)

(6) 法令厳守と各種マニュアルの見直し及び事故防止に向けた取り組みの実施

隔月第1土曜日に職員が共通認識を以て利用者の支援ができるよう全体会議を開き各種法令やマニュアル等についての周知を図ると共に事業所毎の部会を開催し、支援の向上策や、事故防止等について協議を行った。

(7) 災害対策

消防署の指導のもと、各事業所で防災計画に基づき年2回の避難訓練を行った。

(8) 職員の資質・専門性の向上

研修計画に基づき職員の資質向上のため、派遣研修、法人内研修、施設内研修を行った。(研修内容 参照)

(9) 地域福祉の推進

- ① 地域に根ざした福祉の推進を図るため、木の香祭りでは地元の住民の皆さんに参加を呼びかけ多数の方の出席を得て交流を図った。
- ② 木工際への出店、地域の清掃活動などを行い地域との連携と融和を図った。
- ③ 地域社会が抱えている問題を解決するための貢献を行う目的で地域支援事業実施要項による3件の助成を行った。

理事会での審議事項等

開催	理事会審議事項及び協議事項
第1回	議案 1 社会福祉法人大川市福祉会平成27年度事業報告について 2 社会福祉法人大川市福祉会平成27年度決算の認定について 3 社会福祉法人大川市福祉会平成27年度財産目録の認定について 4 社会福祉法人大川市福祉会苦情解決第三者委員の選任について 5 社会福祉法人大川市福祉会役員等の費用弁償規程の一部改正について
第2回	議案 6 社会福祉法人大川市福祉会専決処分について 7 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度第2次補正予算について 協議事項 1 5年契約の労働者について 2 職員採用試験について 報告・連絡事項 1 役員視察について 2 理事・監事の事業所視察について 3 理事長専決業務の報告について 4 平成28年度事業別利用者状況について 5 収支状況報告について

第3回	<p>協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉法人大川市福社会次期役員・評議員の改選について 2 社会福祉法人大川市福社会定款変更について 3 その他
第4回	<p>協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉法人大川市福社会役員の改選について 2 その他
第5回	<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 社会福祉法人大川市福社会平成28年度第3次補正予算について 9 社会福祉法人大川市福社会定款変更について 10 社会福祉法人大川市福社会次期評議員の選任について 11 社会福祉法人大川市福社会次期理事の選任の同意について 12 社会福祉法人大川市福社会役員の定年に関する規程の制定について 13 社会福祉法人大川市福社会次期理事長の予選について <p>報告・連絡事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理事・監事の事業所視察について 2 理事長専決業務報告について 3 平成28年度事業別利用者状況について 4 収支状況報告について
第6回	<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 14 社会福祉法人大川市福社会評議員選任・解任委員会運営細則の制定について 15 社会福祉法人大川市福社会評議員選任・解任委員の選任について 16 社会福祉法人大川市福社会評議員候補者の決定について <p>報告・連絡事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理事・監事の事業所視察について 2 理事長専決業務報告について 3 平成28年度事業別利用者状況について 4 収支状況報告について 5 その他
第7回	<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 17 社会福祉法人大川市福社会平成28年度第4次補正予算について 18 社会福祉法人大川市福社会定款細則の一部改正について 19 社会福祉法人大川市福社会事務決裁規程の一部改正について 20 社会福祉法人大川市福社会運営管理規程の一部改正について 21 社会福祉法人大川市福社会議事録作成要綱について 22 社会福祉法人大川市福社会有期契約職員就業規則の一部改正について 23 社会福祉法人大川市福社会就労継続A型事業所利用者就業規則の一部改正について 24 社会福祉法人大川市福社会育児・介護休業等に関する規程の全部改正について 25 社会福祉法人大川市福社会常用職員の給与規程の一部改正について 26 社会福祉法人大川市福社会有期契約職員賃金規程の一部改正について 27 社会福祉法人大川市福社会苦情対応規程の一部改正について

	<p>28 社会福祉法人大川市福祉会29年度事業計画について</p> <p>29 社会福祉法人大川市福祉会平成29年度収支予算について</p> <p>30 社会福祉法人大川市福祉会木の香ほ一む定員増に伴う指定変更について</p> <p>31 社会福祉法人大川市福祉会本部長の任命について</p> <p>報告・連絡事項</p> <p>1 監査報告について</p> <p>2 予備費の流用について</p> <p>3 理事長専決業務報告について</p> <p>4 理事・監事の事業所視察について</p> <p>5 平成28年度事業別利用者状況について</p> <p>6 収支状況について</p> <p>7 その他</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評議員会での審議事項等

開催	審議事項
第1回	<p>議案</p> <p>1 社会福祉法人大川市福祉会平成27年度事業報告について</p> <p>2 社会福祉法人大川市福祉会平成27年度決算の認定について</p> <p>3 社会福祉法人大川市福祉会平成27年度財産目録の認定について</p> <p>4 社会福祉法人大川市福祉会苦情解決第三者委員の選任について</p> <p>5 社会福祉法人大川市福祉会役員等の費用弁償規程の一部改正について</p>
第2回	<p>議案</p> <p>6 社会福祉法人大川市福祉会専決処分について</p> <p>7 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度第2次補正予算について</p> <p>報告・連絡事項</p> <p>1 役員視察について</p>
第3回	<p>議案</p> <p>8 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度第3次補正予算について</p> <p>9 社会福祉法人大川市福祉会定款変更について</p> <p>10 社会福祉法人大川市福祉会次期理事の選任について</p> <p>11 社会福祉法人大川市福祉会次期監事の選任について</p> <p>12 社会福祉法人大川市福祉会役員・評議員の定年に関する規程の制定について</p> <p>その他</p>
第4回	<p>議案</p> <p>13 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度第4次補正予算について</p> <p>14 社会福祉法人大川市福祉会定款細則の一部改正について</p> <p>15 社会福祉法人大川市福祉会事務決裁規程の一部改正について</p> <p>16 社会福祉法人大川市福祉会運営管理規程の一部改正について</p> <p>17 社会福祉法人大川市福祉会議事録作成要綱について</p> <p>18 社会福祉法人大川市福祉会有期契約職員就業規則の一部改正について</p> <p>19 社会福祉法人大川市福祉会就労継続A型事業所利用者就業規則の一部改正について</p>

20	社会福祉法人大川市福祉会育児・介護休業等に関する規程の全部改正について
21	社会福祉法人大川市福祉会常用職員の給与規程の一部改正について
22	社会福祉法人大川市福祉会有期契約職員賃金規程の一部改正について
23	社会福祉法人大川市福祉会苦情対応規程の一部改正について
24	社会福祉法人大川市福祉会平成29年度事業計画について
25	社会福祉法人大川市福祉会平成29年度収支予算について
26	社会福祉法人大川市福祉会木の香ほ一む 定員増に伴う指定変更について
27	社会福祉法人大川市福祉会本部長の任命について

積立の内訳

	前年度末	生活	道海	木の香らんど	合計
人件費積立金	5,000,000		3,000,000	4,500,000	12,500,000
修繕費積立金	13,000,000		3,000,000	4,500,000	20,500,000
備品等購入積立金			3,000,000	4,500,000	7,500,000
施設整備等積立金	15,000,000		21,000,000	31,900,000	67,900,000
工賃変動積立金	500,000			100,000	600,000
合計	33,500,000		30,000,000	45,500,000	109,000,000

3. 重要契約事項の報告

契約日	契約内容	契約金額
4月1日	大川市障害者地域活動支援センター	6,000,000
4月1日	大川市障害者相談支援事業委託契約	2,760,000
12月21日	大川市社会福祉協議会 (木の香らんど・地域活動)	32,000

4. 補助金・借入金等の報告

11月30日	井上ルリ子	30,000
--------	-------	--------

I 多機能型事業所 「木の香園生活支援センター」

1. 生活介護

(1) 利用状況

①生活介護

利用定員	30名
利用登録者	40名
年間延べ利用者数	7,373名
平均利用者数	26.5名
退所者数	3名 (退所理由:他サービス利用、利用終了など)
※28年度介護給付費収入	62,777,743円
利用料収入	2,973,777円
処遇改善加算	1,948,600円

②日中一時支援 (障害者対象)

利用登録者	5名
平均利用者数	0.2名
※28年度介護給付費収入	273,940円
利用料収入	12,240円

(2) 運営状況

①個別支援会議 延べ 11回 (実人数 11名)

- ・利用者・家族の生活支援ニーズアセスメントをもとに、希望する生活スタイルにできるだけ近づける支援を行うことに努めた。
- ・新規利用者には、ご本人・保護者・行政・支援関係先の情報をもとに、支援計画の作成を行った。支援にあたっては、スタッフ一人の考えで支援を行うのではなく、スタッフ全員が共通認識できるよう策定会議を行い、情報交換を日々行いながら、個別支援計画に基づいた支援を実施した。
- ・支援計画が適性に実践されているか、継続的なモニタリングを行うと共に、定期的に本人、家族との面談を行い、安心して生活できる施設づくりを目標に支援を実施した。

②生活支援・介護支援

- ・土曜開園を行う事で、園外活動やレクリエーションの機会を多く計画し、個別ニーズに沿った活動内容の支援を行った。
- ・利用者の特性に応じて、個別プログラムを設定し安心して過ごせるような環境設定や作業の充実を図った。
- ・バースデイランチ(誕生日対象者)では、対象者の方が好むものを選択し園外での食事会の機会を設けた。(ジョイフル・山賊鍋・洋食屋・お寿司屋さん等)
- ・理容支援が必要な方を対象に、毎月1回訪問カットを実施した。

慣れた環境で散髪を行う事で身だしなみを整えると共に、将来的に他福祉サービスの利用しながら地域資源の活用を可能にする事を目的として行った。1回のカットで4名から5名の方が利用した。

- ・短期入所利用予定者の情報共有を自立支援センターと連携を図り安心して利用が出来るよう努めた。

③リハビリテーション

- ・月に1度、理学療法士によるリハビリ訓練を実施した。
- ・食事前の健口体操を継続する事で、嚥下機能の維持を図った。
- ・棒体操や軽体操を実施し身体機能の維持に努めた。
- ・利用者の身体機能を把握し、レクリエーションや個別リハビリを行う事で身体機能の維持に努めた。
- ・他機関(医療リハビリテーション)と情報交換を行い、他のリハビリ実施計画書を把握し、訓練内容の充実を図った。
- ・リハビリ会議に出席し他機関(医療リハビリテーション)との連携や情報共有を行った。
- ・専門職以外の支援員がリハビリの内容や可動域運動の学習を行い、支援員によるアソビテーションを実施した。
- ・リハビリ実施計画書に基づき、個々の訓練が適切に行えるよう環境設定を行った。

④看護

◎利用者の健康管理を目的に次の事を行った。

- i) 利用者の状態観察。(バイタル測定(毎日)、体重測定(月1回))
健康診断(年1回)・歯科検診(年1回)と歯磨き指導。
薬の管理と服用指導。手洗い・アルコール消毒の実施
水分補給の管理と促し。気管切開・胃瘻管理
- ii) 入浴後の軟膏処置、入浴日以外の軟膏処置、皮膚観察。
- iii) 生活支援業務指導
看護師不在時のバイタル測定・吸引指導実施。
移動・リスク防止と衛生管理・感染防止の指導。
生活支援員が行う看護面での対応と相談について新規職員に
随時指導。
褥瘡の処置と支援員への指導。
土曜日開園時の内服準備・看護指導
往診時の補佐と症状報告
- iv) 医師への連絡報告と相談実施
健康課題への情報交換を家族と行き、共有を図った。また、嘱託
医をかかりつけの病院として有効に利用し家族の介護負担の
緩和に努めた。
- v) 感染予防指導
手洗い・アルコール消毒の講習会を実施。

VI) 感染症発症時の他機関との情報共有

VII) 職員研修・・・内容（ノロウイルス・インフルエンザ）

全職員に対し適切な対応の仕方、知識習得する事で感染拡大防止に努めた。なお、現職員・新任職員に対し再認識を促した。

VIII)その他

・インフルエンザについて、利用者・職員にインフルエンザの予接種を促し健康管理に努め、疑わしい時は早めの病院受診を促し、感染拡大の防止に努めた。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

①苦情受付・・・2件

・送迎時の対応 ・生活支援時の対応

②事故報告・・・6件

・送迎車の自損
・転倒による利用者の負傷

(5) 成果と課題

①成果

- i) 活動の充実を図ると共に、土曜開園で園外活動を多く設定した。
- ii) 個別ニーズに沿った活動の提供を行い、継続した利用確保が出来た。
- iii) 送迎時等顔を合わせる際に、家族との交流を図り信頼関係の構築を行った。
- iv) 毎日の終礼会議で利用者一人一人の活動の様子や身体状況を把握し、支援員間での情報の共有を図った。それにより利用者の身体面や精神面での変化に気付き、個別ニーズに沿った支援を行う事が出来た。
- v) 防犯訓練の実施により、利用者・家族の方が安心して通所出来るよう支援員の防犯に対する知識向上に努めた。

②課題

- i) 利用者のアセスメント収集と整理及びモニタリングの定期的な実施。
- ii) 定期的な個別支援会議の開催。

- iii) 安全・安心・快適に過ごせる環境整備。
- iv) 医療的ケアが常時必要な方の受け入れ体制の確保。
- v) より良いサービスが提供出来るよう職員に対する支援スキルの向上を目的とした研修等の実施。
- vi) 土曜開園で園外活動を設定している為、平日利用の方の参加が出来ていない。

2. 就労移行支援

(1) 利用状況

利用定員	15名
利用登録者	8名(うち就労アセスメント 3名)
年間延べ利用者数	760名(前年度539名)
平均利用者数	3.04名(前年度2.12名)
退所者数	3名(就職者2名、就A利用1名)

※ 28年度訓練等給付費	5,597,184円
利用料収入	174,106円
処遇改善加算	274,950円

(2) 運営状況

①個別支援会議

支援計画を基に必要な支援や現在の状況等について、本人や家族、関係機関との情報共有を行った。

②訓練内容

- ・作業訓練、清掃訓練、面接訓練、挨拶訓練、体力づくり
- ※公共施設(城島げんきかん)を利用したトレーニングを実施。

③就労支援

- ・職場見学…4回 就労支援センターいっぽいっぽ(就A)
アスパラ農園、(株)阿部商店、(株)庄分酢
- ・職場体験…1回 福岡日産自動車(株)
- ・職場実習先開拓…3か所 (株)九州ピット、JA 福岡大城、永寿園
- ・障害者就職準備講座…2名(久留米リサーチパーク)
- ・障害者雇用促進面談会…1名(久留米リサーチパーク)
- ・職場実習…木の香園自立支援センター、(株)中村敬木工
(有)カネクラ加工、永寿園デイサービスセンター
- ・他機関連携…障害者就業・生活支援センター「ぼるて」「ほっとかん」
ハローワーク訪問 7回
- ・就職者への定着支援

本人や就職先の担当者に対して電話にて、状況の確認、困りごとや不安なことがないか聞きとりを行った。また、直接、会社へ訪問し仕事内容や作業の様子を確認した。ハローワークや障害者就業・生活支援センターの担当者との情報共有も随時行った。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

苦情受付・・・0件

(5) 成果と課題

①成果

- ・就職者…正社員1名、パート1名、就労継続支援A型事業所1名
- ・就B利用に係る就労アセスメントの実施。
特別支援学校高等部 3年生が2名。他1名

②課題

- ・新規利用者の確保
- ・利用者のアセスメント及びモニタリングの定期的な実施。
- ・定期的な個別支援会議の開催。
- ・職場実習先の開拓と確保。
- ・一般就労者の増加と定着支援。
- ・他機関（障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、学校）との連携強化。

3. 自立訓練（機能訓練）

(1) 利用状況 延べ 2回（実人数 2名）

利用定員	6名
利用登録者	2名
年間延べ利用者数	173名
平均利用者数	1.5名
退所者数	0名（退所理由：他サービス事業所利用等）
※ 28年度訓練等給付費	942,629円
利用料収入	56,811円
処遇改善加算	39,020円

(2) 運営状況

①個別支援会議

- ・利用者個人のニーズに沿った支援をするために個別支援計画に基づいた支援を実施した。

②日常生活支援

- ・リハビリ実施計画書に基づき一日のプログラムを設定し、支援内容の充実を行った。また、3ヶ月毎の評価と見直しを行い利用者満足度に繋げた。
- ・他機関（医療的リハビリ）訓練の見学や情報交換を細かに行った。
- ・園外活動(ドライブ等)のレクリエーションに参加し気分転換を図り意欲向上に努めた。

③ 看護

- ・利用者の健康管理を目的に次の事を行った。
 - i) 利用者の状態観察。（バイタル測定、体重測定（月1回））
 - ii) 入浴後の軟膏処置、軟膏処置。
- Ⅲ) 感染予防指導
 - 手洗い・歯磨き指導
- Ⅳ) 利用者・家族からの健康相談
- v) リハビリ実施計画書の策定にあたって、医療面での助言。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

苦情受付・・・0件

(5) 成果と課題

①成果

- i) 個別支援計画の内容に沿って利用者の訓練状況・生活状況等を把握し、利用者・家族と情報を共有しながら身体機能の維持・向上につなげた。
- ii) 相談機関や医療機関との連携を図り支援の充実を行った。
- iii) 医療機関主催の担当者会議に参加し情報収集と情報交換を行いより良い充実したプログラムの提供が出来た。

②課題

- i) 新規利用登録者の確保。
- ii) 機能訓練器具の設置と環境整備。
- iii) 自立訓練指導員の支援スキル向上。

I 多機能型事業所 「木の香園自立支援センター」

1. 就労継続支援 A 型事業

(1) 利用状況

①就労継続支援 A 型

利用定員	20名
利用登録者	12名 (前年度10名)
年間延べ利用者数	2,238名 (前年度838名)
平均利用者数	8.8名 (前年度3.18名)
退所者数	2名 (退所理由:入院など)

※28年度訓練等給付費収入	12,298,328円
処遇改善加算	495,110円
利用料収入	<u>517,942円</u>
	13,311,380円
(H27年度)	5,081,876円)

②就労事業収入

大川市高齢者等配食サービス事業

5,303食	3,446,950円
一般配食	3,296,900円

③法人給食事業

・業務委託費	10,853,790円
・給食費	11,800,595円

(2) 運営状況

①就労支援事業

- ・法人内給食業務の受託
- ・大川市高齢者等配食サービス事業の受託
- ・大川市役所での弁当販売
- ・地域の会合やイベント関係での弁当注文の受注

②個別支援会議

利用者、家族、相談支援事業所などの関係機関が参加し、事業所において個別支援会議を実施。

③支援内容

- ・利用者の障害特性に応じた作業工程への配置により、作業効率の向上を図った。
- ・1日の作業の振り返りを行い、できたこと、難しかったことの確認を行い、日々の作業で修正ができるよう支援した。
- ・市役所販売や配達を通し、あいさつや態度など社会的マナーの確認を行った。
- ・視覚的情報(写真など)での作業手順の説明を行うことで、作業時間の効率、作業の正確性を向上した。

④給食の提供

- ・食事提供に当たっては、個々の健康状態(咀嚼機能・嚥下機能)に合わせた(お粥・とろみ食・キザミ食・減塩食・除去食)食事の提供に力を入れ利用者のニーズに対応しながら適切な栄養量及び内容の食事の提供を行った。
- ・各事業所において季節食・行事食等の提供を行った。
- ・食事は、健康を維持するだけでなく利用者にとって日々の生活の中で大きな楽しみとなっている。個人の嗜好に合わせて選択できる喜びを味わえるセレクトメニューを取り入れた。

⑤配食の提供

- ・配食サービス時には、利用者様へ必ず声かけを行い、安否確認を行った。安否確認が出来ない場合は、安否確認マニュアルに基づき関係機関へ連絡する等、適切な対応を速やかに行った。

⑥一般配食

- ・大川市役所販売・福祉施設等の配食の提供を行った。
- ・季節食・行事食については、食事の内容だけでなく、お品書きや手作り箸袋などを作成し雰囲気作りにも力を入れた。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

- ①苦情受付・・・0件
- ②事故報告・・・0件

(5) 成果と課題

①成果

- ・他事業所や特別支援学校等からの職場見学・体験実習を積極的に受け入れた。
- ・大川市内の会合やイベントなどからの弁当注文をいただき、大口の顧客が増えた。
- ・障害特性を理解し、作業説明を行うことで、利用者のスキルが上がり、作業効率や作業能力が向上した。
- ・日々の振り返りを行うことで、作業を行う上での注意点を見逃すことが減り、合わせて、利用者の得意な作業等についても把握ができるようになった。
- ・給食会議を月1回実施し、各事業所の担当職員とともに、利用者の食事状況の確認、献立の検討等を行い、安心安全な食事の提供に努めた。また、給食会議で協議した内容を周知し、調理業務を適宜改善した。
- ・咀嚼機能・嚥下機能低下が見られる利用者に対して、調理方法の工夫を行い、適切に給食を提供した。

②課題

- ・新規利用者の獲得。就労部門の専門機関（ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなど）と連携し、新規利用者の獲得に努める。
- ・利用者及び調理職員の調理技術の向上のため、研修を実施する。
- ・土日祝日の利用者・職員体制を確保し、高齢者等配食サービス事業の配食対象者の獲得を図る。

2. 宿泊型自立訓練事業

(1) 利用状況

利用定員	10名
利用登録者	10名（前年度10名）
年間延べ利用者数	3,132名（前年度3,098名）
平均利用者数	8.5名（前年度8.46名）
退所者数	0名

（退所理由：一般就労、他サービス事業所利用等）

※ 28年度訓練等給付費	16,345,570円
利用料収入	5,300,669円
<u>処遇改善加算</u>	<u>671,510円</u>
	22,320,749円
（H27年度	22,705,230）

(2) 運営状況

①個別支援会議

利用者、家族、相談支援事業所などの関係機関が参加し、事業所において個別支援会議を実施。

②生活訓練

- ・居住の場を確保し、日常生活において必要な支援を実施した。
居室の清掃、洗濯、調理などの声かけを行い、外出時の支援（公共交通機関の利用方法や時間の管理等）や通院時の支援を行い、個別の生活能力の向上に取り組んだ。
- ・必要に応じて服薬管理を行い、健康状態の維持を図った。また、今後の生活に向けて、服薬の自己管理など個別に取り組みを行った。
- ・利用者の希望に応じて、金銭管理規定に基づき、金銭管理を実施。
生活に必要な金額の確認など面談を行いながら確認を行った。
- ・地域の清掃活動などを通して、地域社会への参加を行った。

③安全管理

- ・火災時の自動通報装置及び警備会社との委託契約による防犯対策等、安全管理の体制整備を行った。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

- ①苦情受付・・・0件
- ②事故報告・・・1件

(5) 成果と課題

①成果

- ・平成28年度は3名の方が、宿泊型自立訓練を経て、地域生活（グループホーム）へ移行した。利用者の希望に沿って、見学を実施。その後体験利用を行うことで、実際の生活の体験し、そこでの生活における新たな課題を明確にし、個別に課題に取り組んだ。
- ・地域生活を送るうえで、住む場所の確保だけでなく、日中活動の場への通勤、通所方法の確認、通院手段の確保、余暇活動への参加も想定し、地域移行への準備を整えた。
- ・地域移行に関しては、相談支援事業所等の関係機関と連携し、支援を行った。
- ・個別の生活課題に対し、本人との面談等を通じて、支援の頻度、方法などを決め、実施した。
- ・季節に応じた行事・レクリエーションの企画を行い、生活における余暇活動への支援も実施した。

②課題

- ・地域生活に向けた個別の生活課題への取り組みを充実させる。
- ・利用者が希望する地域の社会資源の情報収集及び、関係機関との連携を充実させ、地域生活に向けた支援を提供する。
- ・職員研修等の実施により、支援の質の強化に努める。

3. 短期入所

(1) 利用状況

利用定員	2名
利用登録者	53名（前年度33名）
年間延べ利用者数	734名（前年度638名）
平均利用者数	2名（前年度1.86名）
退所者数	0名（退所理由：他サービス事業所利用等）
※ 28年度介護給付費	3,531,788円
利用料収入	5,949,100円
<u>処遇改善加算</u>	<u>146,580円</u>
	9,627,468円
(H27年度)	9,603,110)

(2) 運営状況

①生活支援

- ・支援員、夜間支援員による炊事、洗濯、清掃などの日常生活支援を

行うとともに、利用者の生活相談などへの対応を行った。

- ・日常生活において、介助が必要な利用者に対し、生活支援員を配置し、必要な介助支援を行った。

②余暇活動支援

- ・外食や施設内での会食を通じ、利用者・職員間の親睦を深める機会を設けた。
- ・長期休暇中（年末年始・クリスマス等）に短期入所を利用される利用者の方へ、季節の行事に合わせた食事の提供を行った。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 成果と課題

①成果

- ・在宅で生活している利用者（障害者・障害児）の短期入所の受入を行うことで将来の生活に向けた体験の機会を提供した。
また、短期入所の受入れにより、家族など介護者のレスパイトを図ることに協力できた。
登録者数も49名となり、法人内外から多くの利用者を受け入れることが出来た。
- ・緊急的に短期入所が必要な方の受入れを行うことが出来た。

②課題

- ・様々な障害に対する支援の充実を図る。
- ・レスパイトのための受入れの継続。
- ・職員研修等を実施し、支援職員の技術向上、支援の質の向上を図る。

II 就労継続支援B型事業所「木の香園就労支援センター」

1. 利用状況

利用定員	40名
利用登録者	42名（前年度43名）
年間延べ利用者数	9812名（前年度9,506名）
平均利用者数	38.1名（前年度36.9名）
退所者数	2名（前年度5名）
※28年訓練等給付費収入	68,920,360円
利用料収入	2,682,180円
<u>処遇改善助成</u>	<u>2,618,920円</u>
	74,221,460円
（H27年度）	72,088,630円

2. 事業運営状況

(1) 生産活動

- ・作業は、各利用者が持ち合わせている能力を活かせる場面や行程を設定し、作業に関わる充実感や達成感を感じられるようモチベーションの維持、向上に繋げるように努めた。

その結果、任された工程に取り組むことで、自分の仕事とし自信が持てたと思われ活気もみられた。

- ・一連の日課表に乗れなかった方には、個別の対応を行い作業環境整備など、柔軟な対応を行った。
- ・アルミ缶回収BOXの設置場所を新規で確保。収益の拡大に繋げ、利用者工賃で還元した。

① リサイクル班

- ・アルミ缶回収（ビール瓶、一升瓶）、アルミ分別
- ・アルミ工場納品・アルミシュレット分別

② 下請班

- ・イヒコ・コーポレーション ござ巻き、ゴロピタシート、消臭イ草
- ・コンポスト材料作り、エコバック（環境課）
- ・庄分酢 段ボール箱作り・ギフト箱作り
- ・日産自動車 ダイレクトメールチラシ折り
- ・カネクラ カーボード、スライドデカクリップ、3RD、糸きり
- ・テラオ つまみ検品、丁番検品、
- ・えがちゃん農園 にんにく種割、にんにく薄皮剥き
- ・JA福岡大城 アスパラ紙折り
- ・JA八女 柑橘類の皮むき

③ 配達事業 ヤマトメール便

④ 自主製品販売

- ・もみ殻くん炭、竹炭オブジェ、竹性製品（はし、へら）門松、手作り石鹼、布製のし袋

⑤ 施設外の作業

- ・農作業：アスパラ肥料まき、にんにく収穫
- ・中村敬木工：段ボール組立
- ・大川市環境課：廃プラスチック分別

⑥ 製品販売

- ・くるるん夢市場 ・木の香マラソン・大川木工まつり・福祉のつどい・あじ彩館2箇所

⑦受注活動

- ・安定的な生産活動を提供するために、受注先の開拓を行った。
平成28度は賞与2回支給を行った。

28年度工賃総支給額 7,905,125円

平均工賃 15,982円

※28年度就労収入 9,963,526円

(前年度 8,968,725円)

(2)生活支援

①日常生活支援

- ・地域との関わり、就労活動の紹介を目的に木工祭、木の香マラソン、福祉のつどいで対面販売の実施を行った。
- ・就労訓練、生活支援の為、建物の清掃活動並びに生産活動に利用した被服の洗濯訓練を実施した。
- ・利用者の日中活動、生活面の充実と考え、社会参加を意識し、利用者特性に応じた活動に取り組んだ。
- ・調理実習では、利用者それぞれに役割を与えることで自立に向けて必要な自立支援を行った。
- ・ハンドマッサージ、訪問カットを実施した。

(3)給食の提供

- ・献立内容は、給食会議を実施することにより利用者の意見や希望も取り入れ、バランスの良い食事提供ができるように配慮した。
また、嚥下体操を食事前におこない、誤嚥の予防を図った。
- ・給食会議を毎月1回行った。

(4)個別支援計画

①個別支援会議 延べ40回(実人数 40名)

- ・サービス利用提供の基本となる個別支援計画については、本人の長所を活かすために、本人(家族)のニーズや要望を踏まえアセスメントやモニタリングなどを行い計画作成を行った。個別支援計画書に基づき家族参加の一泊旅行、日帰り旅行、餅つき、運動会を実施した。

(5)その他

- ・送迎時等、ご家族と顔をあわせる際には、交流を図り信頼関係の構築に努めた。
- ・親子ボリリング大会を実施し、家族との交流を深めた。
- ・利用者に体調変化が見受けられた場合は、早期に保護者に連絡を取り適切な通院・内服管理を行った。
- ・地域行事へ積極的に参加した。
- ・アルミ缶回収の御礼として道海島小学校へ卒業記念品の贈呈を行った。

3.行事報告

別紙行事報告書参照

4.成果と課題

(1) 成果

- i 就労継続支援事業で新規の施設外支援を実施することにより利用者の仕事への意欲向上につなげた。
就労継続支援A型事業所の見学を行い作業意欲の向上、就労継続支援A型事業所へのステップアップ意識の向上に取り組んだ。
- ii 就労支援事業については、常時多様な種類の作業を準備し、一人ひとりの能力や特性に合った作業や計画的なローテーションが出来る環境を整えたい。
下請け作業及び新規事業の獲得を行った。
- iii 作業場の環境・配置を考慮することにより一人ひとりの集中力が増した。
- iv 前年度に比べて、利用者の作業意欲向上したこともあり就労収入が大幅にアップすることが出来た。
- v 新規自主製品では、新たな製品作りに取り組み販売を行った。
- vi 生活支援の充実に努め、本人の希望、家族の意向を確認しながら行事やレクリエーションを積極的に実施した。
- vii 木工祭、福祉のつどい、木の香マラソンへの出場、出店を行い木の香園のPR・交流に積極的に努めた。
- viii 毎週月曜日、散歩を実施しながら道海島地区清掃活動の取り組みを行った。
- ix 施設の改修工事については、老朽化したトイレ3ヶ所、浄化槽、シャワー室給湯機、水道管の水漏れ等計画的に修理を完了し、快適な環境に整備することが出来た。
- x 施設利用中に地震が発生したため地震時の避難訓練を実施した。
また、災害に備え備蓄品の準備を行った。

(2) 課題

- i 利用者登録が増えたため、作業場増築の検討が必要である。
- ii 施設の老朽化により、随時修繕が必要な個所の修理を進めている。
利用者の安全確保の為にも検討が必要である。
- iii アルミ回収量が減少しているため今後、回収量を増やす必要がある。
- iv 利用者の方に対して、高い工賃を支払うためには、安定した作業量を確保するために高い生産性・品質、納品厳守が必要である。
- v 作業生活を通じて本人が望む生活を維持出来るようにし、高賃金を目指すとともに、時間をかけて一步一步育成し、一般就労を目指す。

Ⅲ 就労継続支援 B 型事業所（就労継続支援 B 型）「木の香らんど」

1. 利用状況

利用定員	20名
利用登録者	24名(前年度17名)
年間延べ利用者数	3,450名(前年度2,884名)
平均利用者数	13.0名(前年度11.1名)
退所者数	1名(前年度8名)

※28年度介護給付費収入	25,826,650円
利用料収入	823,880円
処遇改善加算	<u>979,610円</u>
合計	27,630,140円 (H27年度 25,475,840円)

2. 事業運営状況

(1) 就労支援事業

①下請作業

(成果に関しては5.成果と課題の成果④参照)

- ・家具部品の組み立て等・シート切り・シュレット分別
- ・チラシ印刷・みかんの皮むき・にんにく作業
- ・コーヒー出荷・自動車部品の加工・家具の点検
- ・ゴザ・い草加工品・引っ越し作業 等

②委託作業・施設外就労

- ・清掃作業・花壇整備業務・廃プラスチック分別作業

③販売

木工祭り、ふくしのつどい、市内の旅館の展示スペースでの販売 随時実施

④平成28年度就労支援事業収入 5,261,412円

平成28年度利用者工賃支給総額 2,410,945円

平成28年平均工賃 11,995円 (H27年度8,643円)

(参考) 時給換算 154円/時給

18,634円/月額

⑤支援内容

- ・毎日の職員会議で利用者の健康状態、生活態度、作業内容、指示の工夫などの協議を行った。
- ・業務会議の中で、個別ケース検討、年に2回の工賃評価査定会議を行った。

(2) 生活支援

①個別支援会議 開催回数 32回

- ・本人、家族、関係機関の参加を得て年2回(10月・3月)個別支援会議を開催した。サービス等利用計画作成の本格

実施に伴って、計画相談作成事業所の参加を必須とした。会議の中では、就労支援に加え、本人のニーズを確認し、生活面の支援方法を家族や関係機関も含めて検討した。併せて家族や関係機関に本人の就労の様子を見学して頂き、日頃の支援の様子を知る機会にもなった。終了後にはミーティングで会議内容を共有し、支援の統一を図った。

②日常生活支援

・日常生活支援として金銭管理支援、個別面談による相談支援を実施した。さらに男女間の問題や性的な問題に関しても職員で協議を重ねた。適切な距離感、関係性の構築についてグループミーティングなどを用いて相互理解を高める取り組みを行った。

(3) その他

①職員の資質向上

職員の資質向上のため、精神障害者の地域生活に関する研修会、アルコール依存症やアセスメントの重要性を確認する直接処遇に関する研修会、虐待防止研修への参加を行った。また、研修会に参加した職員が、職員会議の時に伝達研修を行い、職員の専門性の向上に努めた。

②病院・他事業所との連携

利用者のうち精神科病院に通院している利用者については、病院のソーシャルワーカーと連携して、通院治療状況の確認や生活支援の様子などを共有し、微妙な病状の変化に対応出来るように努めた。また内科疾患のある利用者は家族や相談支援事業所と連携をして、本人の病状悪化防止に向けて経過観察や面談を行った。

3. 行事報告

別紙行事報告書参照

今年度の特徴として、昨年度同様により多くの利用者が参加出来る様に平日に行い、その振替として土曜日に作業を行った。また昨年度には実施しなかった一泊旅行を行った。野球観戦・明太子工場見学を中心とした旅行スケジュールを組み、「楽しかった、また行きたい!」という声も聞かれた。さらに福精連の活動として、ふれあい大会や精神保健福祉研修会にも引き続き参加をした。

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

苦情受付 4件 虐待受付 0件

今年度は虐待に関する相談通報等はなかったが、職員の支援中の声掛けに関しての苦情が4件あった。苦情があったそ

の都度、利用者・職員・管理者3者の面談の場を設け解決を図ると共に、職員間で共有を図り改善を図るように努めた。
※すべて口頭による申し出。文書による回答を求められておらず、受付窓口での対応により解決している。

(2) 事故報告

事故報告 4件

事故の内容は、車両物損事故が3件(修理済み)、利用者が休憩中の他利用者に対し暴力行為を行った事故が1件であった。暴力事件に関しては、暴力行為を行った利用者が精神科病院1カ月入院治療を行い、その後利用再開に伴い謝罪を行い解決した。また担当者会議による関係機関の情報共有、職員体制の見直し、支援方法の再確認を行い、再発防止に努めた。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ①三障害に対応した施設として、障害特性や疾病に配慮した個別支援を展開した。毎日の職員会議で利用者一人一人の生活状況、就労訓練状況を把握し、職員間で情報の共有を図った。また、利用者の人権を第一に考えた支援を提供することに努めた。その結果、質の高いサービスの提供を職員一人一人が意識をしながら支援を行い、より良い支援を提供することに繋がった。さらに、年2回の個別支援会議を実施し、利用者本人や家族のニーズ把握に努め、様々な関係機関と共に包括的なサービスの提供を行った。
- ②観光協会と協力し、市内の旅館の展示スペースで授産品販売を行った。
- ③利用者への支援を充実させるために、職員研修や職場外研修への参加を行い、専門的な知識の習得に努めた。
- ④就労支援については、国が進める障害者施設への官公庁からの発注促進が法的に位置づけられ、大川市からの環境課プラスチック分別作業の委託を継続して受けることができた。また下請作業の受注が増え、利用者工賃が1.4倍アップした。
- ⑤昨年の7月にあった障害者施設での殺傷事件以降、防犯体制に関する取り組みとして防犯訓練を2回実施した。不審者が尋ねてきた時の職員対応マニュアルの作成を開始し、警察にも協力してもらい実際に刺叉を使用した実戦訓練を行った。その結果職員や利用者の防犯意識を高めることに繋がっており、実際に起こった場合の対応の方法について確認することが出来た。

(2) 課題

①利用率の改善

精神障害のある利用者の通所が安定しない現状がある。本人の病状や生活環境の変化を捉えて、医療と福祉が連携することで安定した通所と入退院を繰り返さないという支援を行っていくことが今後の課題である。

②就労支援事業の拡大

引き続き利用者工賃の向上の為に、課題は、新規事業の獲得など積極的な営業活動の展開である。

③利用登録者の増大

昨年3月多機能型事業所から単独型の就労継続支援 B 型事業所となり、定員が15名から20名に変更となった。利用登録者数も7名の増員をすることが出来たが、登録者数30名を目指しているため、行政や相談支援事業所、医療機関への周知や営業活動が課題である。

VI 地域活動支援センター 「木の香らんど」

1. 利用状況

i) 利用定員	20名
ii) 利用登録者	5名
iii) 年間延べ利用者数	445名 (昨年度実績555名)
iv) 平均利用者数	1.68名 (昨年度実績2.19名)
v) 退所者数	0名 (昨年度 9名)
vi) 利用者の主たる障害	
精神障害 (身体障害、発達障害、知的障害の方若干名)	
※28年度大川市補助金	6,000,000円
利用料収入	72,170円
合計	6,072,170円
	(H27年度 6,108,020円)
被保護者勤労意欲助長事業	594,000円
	(H27年度 1,447,000円)

2. 運営状況

(1) 生産活動

※希望者は就労継続支援B型利用者と共に生産活動に従事

①下請作業

(成果に関しては5.成果と課題の成果④参照)

- ・家具部品の組み立て等・シート切り・シュレット分別
- ・チラシ印刷・みかんの皮むき・にんにく作業
- ・コーヒー出荷・自動車部品の加工・家具の点検
- ・ゴザ・い草加工品・引っ越し作業 等

②販売作業

- ・イベント販売 (木工祭、ふくしのつどいなど)
- ・仕入販売 (靴下、カレー、コーヒー、庄分酢等) : 随時実施

(2) 生活支援

①行事・レクリエーション・・・別紙

②生活支援

- i) 朝礼時に体調確認、日課の確認を実施
- ii) 休憩時のお茶当番を交代で実施
- iii) 終業前の清掃活動
- iv) 面接 (本人・家族)、見守り、声掛け、関係機関情報共有

③ソーシャルスキルトレーニング (SST)

月1回対象利用者に向け、社会的スキルを習得するための SST 実施

④防犯・防災への取り組み

不審者が尋ねてきた時の職員対応マニュアルの作成を開始し、警

察にも協力してもらい実際に刺又を使用した実戦訓練を行った。

(防犯訓練：2回、避難訓練：1回)

(3) 個別支援会議等

個別ケース会議 2回

(4) 関係機関連携

関係機関と連携を図りながら生活の安定につながるような相談支援を提供した。主に相談支援事業所、成年後見人、病院、福祉事務所等他職種連携し、本人や家族が望む暮らしの実現に向けて支援を行った。

(5) 被保護者勤労意欲助長事業（職場適応訓練委託）

生活保護受給者の自立支援を目的として、作業を通して、就労意欲の向上、職業能力の回復、生産活動への従事など就職に向けての支援を行った。現在、1年間を通して利用している利用者がいるが、現時点でも利用継続中である。

3. 行事報告

別紙行事報告書参照

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

苦情受付 3件 虐待受付 0件

今年度虐待に関する相談通報等の受付はなかったが、苦情が3件あった。内容として、職員間の共有がなっていない、他利用者から同じことを言われる等のことであった。

※すべて口頭による申し出。文書による回答を求められておらず、受付窓口での対応により解決した。

(2) 事故報告

事故報告 0件

今年度は昨年度同様事故の報告はなかった。

5. 成果と課題

(1) 成果

① 1年以上入院していた利用者の退院時のカンファレンスに参加をし、退院後の生活の支援を実施した。本人の日中の場の提供だけでなく、行事参加の促し、成年後見制度利用申立支援等を行った。

② 被保護者で長年就労していない者に対して、生活リズムの構築を図り、就労支援を行った。作業を通し、就労に向けた支援を行ったことで、今まで家での生活が中心であった利用者が、外で働く場を確保し、家族以外の人と接する機会となった。

③ 11月より発達障害のある利用者に対し、月1回ソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施し、思考の傾向や特性等自己の理解を深めると共に、対人関係を円滑に築くことを目的とした支援を実施

した。また、その中でロールプレイを実施し、場面を想定した上で、その時の適切な振る舞いを一緒に検討した。

(2) 課題

①生活支援の質の向上

疾病や障害に加え通所が滞る、健康面での問題を抱えている等、生活面での課題を抱えた利用者が多いため、その課題を解決するために支援プログラムの見直しが課題である。

②利用ニーズへの対応

大川市で唯一のサービスであることから、一人でも多くの人に“居場所”を提供し、安心して過ごせるような環境づくりを行っていくことと、円滑な人間関係を構築していくための SST を効果的に実施していくことが課題と考えている。

③アウトリーチ支援

地域で生活をしている精神障害のある人を支えるために、相談支援事業所や行政と協力し、自宅や病院に訪問することや長期入院患者の地域移行の受け皿としての役割を担っていくことが課題である。

Ⅶ 相談支援事業 「木の香園相談支援センター」

1. 相談支援状況

相談登録者	333 件 (315 件)
年間実相談件数	2,243 件 (1,263 件)
年間延べ相談件数	3,688 件 (1,967 件)
1 日平均相談件数	14.4 件 (7.7 件)

※28 年度

自立支援給付費 (未請求分含む)	8,869,410 円 (8,068,950 円)
補助金収入	4,920,000 円 (4,920,000 円)
受託事業収入	576,000 円 (723,820 円)
合 計	14,365,410 円 (13,712,770 円)

2. 運営状況

- (1) 個別ケア会議 (自立支援協議会事例検討) 関係者ケース会議
実施回数 3 回 (実人数 12 名)
- (2) サービス担当者会議 (サービス利用計画作成者)
実施回数 23 回 (実人数 23 名)
サービス利用計画作成費 延べ 648 件 8,869,410 円
(内、大川市 534 名、佐賀県 61 名、その他 53 名)
地域移行・地域定着支援 延べ 0 件 0 円
- (3) コミュニケーション支援事業 0 件 0 円
聴覚障害者への手話通訳者、手話奉仕員の派遣調整
- (4) 認定調査
大川市認定調査委託費 (大川市 70 件 (1 件 6,800 円)、遠隔地 4 件 28,000 円 合計 504,000 円)
久留米市認定調査については、今年度受託していない為委託費なし (前年度久留米市認定調査委託費収入 241,920 円)
- (5) 行事報告
別紙行事報告書参照

3. 職員体制

管理者 1 名、相談支援専門員 3 名 (兼務)、精神保健福祉士 1 名 (兼務)、相談員 1 名

4. 大川障害者自立支援協議会

- (1) 全体会 年 2 回開催
第 4 期障害福祉計画進捗状況報告
平成 28 年度協議会活動報告
平成 29 年度協議会活動計画案審議

(2) 定例会、事務局会議 毎月開催

- ・各相談支援事業所からの相談支援月報報告及び、支援困難ケース等、個別事例検討の実施
- ・大川市日常生活自立支援事業の導入に向けた検討会
- ・H29年度八女筑後委託相談支援事業所交流会の企画
- ・大川市サービス提供事業所連絡調整会議の企画運営
- ・自立支援協議会の運営及びサービス提供事業所の質の向上に向けた研修会の企画等

5. 成果と課題

(1) 成果

①委託相談

年間延件数として 3,688 件の相談に対し、電話もしくは面談にて対応し、大川市より年間 492 万円の受託収入があった。

事業所間の情報交換や、従業員の質の向上を目的に、自立支援協議会に於いて、サービス提供事業所連絡調整会議を企画した。

事業所内における金銭管理負担解消の為、自立支援協議会に於いて、日常生活自立支援事業の推進を検討した。

大川市他からの委託により、70 件の障害支援区分認定調査を行い、50 万円の受託収入があった。

②計画相談

計画相談として、延 648 件対応し、8,869,410 円の実績があり、計画を上回る事務があった。

委託相談から、法人での新規利用者獲得に繋がるケースが見られる他、大川市の障害サービスの普及啓発が進んだ事から、新規利用者が増加した。

(2) 今後の検討課題

①委託相談

新規相談件数が年々増加している中、支援困難なケースが累積している為、対応に係る時間も増大している。

相談に応じた時間を適切に報酬に繋げるためにも、モニタリング期間の見直しが必要であり、必要に応じた支給決定を得られる様、行政との連携を図る必要がある。

複雑な事例に対応する為に、関係者との更なる協議機会の確保や職員のスキルアップも課題である。

必要な社会資源の開発、事業所との連携など、自立支援協議会の中で検討する課題が増える傾向にある。

高齢障害者のサービス利用基準が不明確である為、利用申請が増加している。65 歳以上の高齢者のサービス利用を、どこまで自

立支援サービスで対応するのか、協議会で検討していく事が課題である。

②計画相談

新規利用者が増加している事により、計画作成数、モニタリング回数が増大している。

一方、その為に必要な事務量も増大している中、やむを得ず請求事務に遅れが見られ、未収金が発生している。

委託相談と計画相談の担当者を分けて配置する事や、両業務を兼務しつつ人員配置を見直す事で事務の効率化を図っていく事が課題である。

IV 木の香園児童支援センター 単位1 (放課後等デイサービス)
(日中一時支援事業「木の香園でいさーびす」)

1. 利用状況

(1) 放課後等デイサービス (開園日数 342日)

利用定員	10名
利用登録者	41名 (40名)
年間延べ利用者数	3,471名 (3,545名)
平均利用者数	10.1名 (10.6名)
退所者数	5名 (退所理由:高等部卒業のため)

※28年度介護給付費収入 38,682,350円(35,989,645円)

利用料収入 1,331,749円 (1,198,115円)

処遇改善加算 2,121,460円 (2,162,300円)

合計 42,135,559円(39,350,060円)

(2) 日中一時支援 (三又利用者:単位1・単位2合計)

(開園日数 336日)

利用定員	10名 (北古賀、下林事業所合計)
利用登録者	28名 (21名)
年間延べ利用者数	649名 (515名)
平均利用者数	1.9名 (5.9名)
退所者数	0名 (0名)

(3) 日中一時支援 (三又利用児童:単位1・単位2合計)

(開園日数 95日)

利用定員	10名 (北古賀、下林事業所合計)
利用登録者	12名 (21名)
年間延べ利用者数	95名 (130名)
平均利用者数	1.0名 (1.5名)
退所者数	0名 (0名)

※28年度介護給付費収入 1,372,040円 (2,287,396円)

利用料収入 55,720円 (277,383円)

合計 1,427,760円 (2,564,779円)

2. 運営状況

(1) 個別支援会議（児童発達・放課後デイ）

実施回数 3回（実人数2名）

新規利用者については、フェースシート、アセスメントシート、個別支援計画原案作成。発達状況の確認、利用者（保護者）のニーズに基づいた個別支援を実施した。

(2) 療育活動

①個別療育

学習活動（学校宿題、時計の読み方、なぞり書き、パズル等
漢字書き取り、漢検学習）

日常生活動作の習得

手洗い、片付け、着替え動作が習得できるよう、声掛け促し
付き添って指導

②グループ活動

レクリエーション活動（ボール遊び、塗り絵、創作活動、
バトミントン、シャボン玉、釣り、凧揚げ等）

散歩活動（公園、施設周辺等）

※主に土日開園時に行事活動を実施した。

(3) 支援内容

①放課後等デイサービスの特徴

安心して利用できる場を提供しつつ、学校の宿題や創作活動、散歩
や近隣施設の利用などを通して、楽しい集団生活ができるよう
努めた。

②1日のスケジュールに基づき活動を行うよう促した。午前・午後の
活動を分け学校の宿題や個別療育に取り組んだ。

(4) 行事レクリエーション

・放課後や学校休業日ごとに活動内容を分けて実施した。

（放課後）ドライブ・縄跳び・公園や近隣の散歩

（学校休業日）映画鑑賞・宿泊研修・バスハイク等

①土日開園の特徴

園内・園外行事を行う。園外行事においては、映画鑑賞・外食・
娯楽施設の利用など、楽しんでもらえるよう行った。園内行事は、
音楽教室、創作活動、誕生日会、季節の行事、などを実施した。

昨年度は2回、遠方への外出を企画しご家族参加の場を設け、利用
者ご家族共に満足できる活動を実施した。

②長期休暇の特徴

娯楽施設の利用や創作活動、木の香まつりでの利用者出し物に
向けた練習制作や出し物の準備を行った。

また、プール療育を行い、暑さ対策・運動の場を設けた。

3. 行事報告 別紙行事報告書参照

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

苦情受付 0件 虐待受付 0件

利用児が自身の荷物を忘れて帰る事案が週に2,3回はあり、保護者から確認の電話あり、その都度謝罪対応した。

(2) 事故報告

事故報告 7件

送迎中の事故が、3件発生。職員の不注意での物損事故や、利用児が後ろから掴み掛る事案もあり。園到着し車を降りた瞬間に発作で転倒が1件。利用児の気分や体調には細心の注意をもって対応したい。

園での利用児から他児への他害行為も見られみられることもあり。幸い怪我する事案は無かったが、安全面に配慮した支援体制を作っていく。

5. 成果と課題

(1) 成果

①昨年3月から、放課後等デイサービス事業を、三又事業所に一本化して運営した。重度者が多い単位1に関しては、フロアの雰囲気は静かになり、利用児が落ち着いて過ごしやすい環境を提供できた。

②昨年度、秋に保護者会を行い、家族向け研修や茶話会は好評で、今年度は、保護者会の回数を増やし、職員と家族の交流、家族間の交流の機会を深めていきたい。

③昨年度初めて木の香祭りにデイから出し物が出来た。春から計画的に練習を積み、本番では一体となり、参加した児童は楽しそうであった。今後も利用児が楽しめるよう、行事等を計画実行していきたい。

(2) 課題

①職員は積極的に研修に参加出来ているが、療育内容は未だ不十分であることは否めない。今後とも、研修を通して、職員の知識・技術向上を図っていきたい。

②昨年度、5名の利用終了者が出た（高校卒業等）。新規利用者の獲得に向け、特別支援学校や市と連携をとりながら進めていきたい。

③関係機関との連携が、十分に取れていない状況で、質の高いサービスが提供できていない。相談支援事業所や学校、役所と密に連絡を取り、利用児及び家族の利用満足度を上げられるよう努めたい。

V 木の香園児童支援センター 単位2 (放課後等デイサービス)
(日中一時支援事業「木の香園でいさーびす」)

1. 利用状況

(1) 放課後等デイサービス (開園日数329日)

利用定員	10名
利用登録者	25名(29名)
年間延べ利用者数	3,254名(3,232名)
平均利用者数	9.9名(9.6名)
退所者数	3名(退所理由:高等部卒業及び施設入所のため)

(2) 日中一時支援(単位2利用者)

※単位1報告参照

※28年度介護給付費収入 32,829,747円(29,214,663円)

利用料収入 761,063円(986,197円)

処遇改善加算 1,959,700円(1,579,080円)

合計 35,550,510円(31,779,940円)

2. 運営状況

(1) 個別支援会議(療育支援会議)

全ての登録児に対して実施。

新規利用者については、フェースシート、アセスメントシート、個別支援計画を作成。発達状況の確認、利用者(保護者)のニーズに基づいた個別支援を実施した。また常勤職員による定期的なモニタリングを行い、支援計画の評価と課題の整理、新たな個別支援計画の作成を行った。

(2) 関係機関連携会議

実人数10名

支援を行う中で、関係機関との連携と役割分担が必要な場合に、学校や医療機関等と個別の連携会議を行い、課題解決に向け協働して支援を行った。

(3) 自宅訪問による家庭連携

実人数11名

利用が少し遠のいた児や、家庭状況の確認を必要とする児等に自宅を訪問し、相談支援を行った。

(4) 療育活動

①個別療育

学習支援:学校の宿題とプリントによる学習支援

他者とのコミュニケーション:対人関係に困難がある場合等適時介入し、前後の状況の確認と、対人関係が円滑になるよう、振り返りと助言を行った。

ADL及びIADLの自立：排泄や食事の自立に向けた支援や、片付け、着替え、脱いだ洋服の畳み方など、視覚的支援を用いて、自立に向けた支援を行った。また買い物実習、乗り物実習を通して、ひとりで計算をしながら複数の買い物をする、掲示板を見ながら行き先と料金を確認して、切符を購入して乗り物に乗るといった療育も行った。

②グループ活動（レク・行事）

放課後利用時には、宿題や課題が終わった後に、公園遊びや散歩、室内でのボール遊びやWiiのゲームでの遊び、ペーパークラフト等の創作、スライムの感覚遊び等の活動の提供を行った。個々の障害特性や状況に応じて活動を提供し、対象児の感覚や欲求等を満たすと同時に、順番を守る、相手の気持ちを考える、相互に楽しく遊ぶ、といった社会性の獲得に向けた支援を行った。

休日には、プールや公園等への外出、スポーツクラブや調理実習、お菓子クラブ等のレクの実施、映画鑑賞やバスハイク等のお楽しみ行事の実施、工場見学等の社会活動、防災センターの体験等の災害学習や、鹿児島桜島への宿泊研修では火山の学習を行った。

3. 行事報告 別紙行事報告書参照

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

苦情受付 0件 虐待受付 0件

(2) 事故報告

事故報告 1件

①車で送迎中に、乗車していた利用児が、シートベルトを外しウインカーやハザードランプをいじったり、シートを跨いで後部座席と前のシートを行ったり来たりしており、蛇行運転をしていた所、後ろを走行していた車の運転手から事業所に連絡が入った。

短時間の職員も含め全体で振り返りを行い、全ての児が座席に座りシートベルトをしないと車を発車させない、走行中同様の状況になった場合には直ちに路肩に停車し、シートベルトをするまで待つ。ひとりで判断や対応ができない時には事業所に連絡し応援を呼ぶこと、とした。

以降上記を守るよう徹底をしている。

②また、当対象児への支援については、職員ミーティングを行い、クールダウンをしてから車に乗せるようにすること、乗車する前に常勤職員が車での約束事を確認することとし、対象児へは児童発達支援管理責任者が面談を行い、当利用児からの聴き取りとマ

ナーを守って車で過ごすよう指導を行った。その後はマナーを守って車で過ごすことができている。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ①毎朝毎夕のミーティングの時間に、全体で振り返りと児の状況の共有、課題の検討ができている。また定期的に常勤職員全員で、個別支援計画の確認と、モニタリングの実施、新たな個別支援計画の作成ができおり、支援方針の共有と統一が図れるようになってきた。
- ②個々の児に応じたスケジュールの作成及び支援の提供が行えている。児にスケジュールが定着してきており、職員の促しが無くともスケジュールにそった行動ができるようになってきている。個別療育も徐々に充実してきた。
- ③必要に応じて、相談支援事業所や学校、医療機関や行政等と連携が取れており、保護者支援や役割分担を行いながらの世帯支援が行えている。
- ④2か所で行っていた放課後等デイサービスを三又事業所に一本化し、障害特性によりクラス分けをしたことで、それぞれの特性に応じた支援の提供が行えるようになっている。

単位2では、発達障害の児が多いことから、積極的に外に出かけ、建設的にエネルギーの発散ができるよう支援を行っている。また、将来的には一般社会で生活をしていく対象児であることから、IADLや社会性を身に付けるためのプログラムを多く提供できた。

- ⑤保護者会に関しては、単位1と同様。

(2) 課題

- ①個別支援計画の共有は図れているが、全員で決めた支援方針が日々の慌ただしい全体の支援の中で、決めた通りの実行できていないことがある。児を迎え入れるまでの準備と職員同士の確認が図れるようになると良いと思われる。
- ②普通学級に在籍する児童の学校との連携が図りにくい。保護者や医療機関と連携をしながら、学校に理解を求めていく必要がある。またその中で学校での児や学校教員の状況を踏まえ、当園で支援できる内容を検討していく。
- ③個別支援計画や児の情報共有を優先して実施してきた為、知識やスキルを習得する為の、事業所内の職員研修が実施できていない。正規職員に関しては外部の研修に多く参加をしているが、有期職員には研修の機会が少ない為、障害特性を理解する為の研修の実施が必要である。

<p>④防犯対策について、マニュアルの作成に至っていない。児童という特性と、建物の構造上、どこをポイントに防犯対策を行うのか、警察の助言を受けながら、マニュアルの作成と防犯訓練を行っていきたい。</p>	
-------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

VI 共同生活援助事業 「木の香ほ一む」 ※短期入所併設

1. 利用状況

利用定員	17名	(小保5名 道海島7名 木室5名)	+短期(空床)	1名
利用登録者	15名		(短期	7名)
年間延べ利用者数	4,867名		(短期	37名)
1日平均利用者数	13.3名		(短期	0.1名)
新規利用者数	3名		(短期	1名)
退所者数	1名			
※ 28年度給付費収入		17,473,880円		
※ 利用料収入		6,401,800円		
※ 特定障害者特別給付費		1,640,000円		
※ 処遇改善助成金収入		943,670円		

2. 運営状況

(1) ①生活支援

- ・世話人・支援員による炊事、洗濯、清掃などの日常生活支援を行うと共に、利用者の悩み等の相談対応を行った。
- ・日常生活において介助が必要な利用者に対し、生活支援員を配置し、必要な支援を行った。

②余暇活動支援

- ・外食やほ一む内での会食を通じ、利用者・職員間の親睦を深める機会を設けた。
- ・年末年始をほ一むで過ごす方に、おせち料理を準備するなど長期休暇中の支援体制の確保を行った。

③施設整備

- ・階段や廊下に、あらたに手摺を設置し、利用者の移動に関する安全確保及び職員の介護負担軽減をおこなった。

(3) 行事報告 別紙行事報告書参照

3. 成果と課題

(1) 成果

- ①長期休暇等、ほ一むで過ごされる方々に対する支援体制の確保を行った。
- ②手摺の設置など、施設整備を行い、利用者の生活面での安全確保につとめた。

(2) 課題

- ①定員の充足に伴う、新規ほ一むの開設。
- ②職員の支援スキルの向上。
- ③個別支援会議の計画的な実施。